

～持続性の追求～

2013年3月10日発行 3月号 No. 217

◇「今年の年度末」

広報副委員長 松下 章一〔江戸川支部 (有)松下運送〕

多くの皆さんの努力の甲斐あって、自民政権に返り咲きました。おかげで、株価は、どんどん値を上げて、円は、ドンドン安くなって、麻生副総理もおっしゃってますが、まだ何もしていない状態なのに大きく変化してますね。

我々運送業界はといえば、その恩恵にあずかるどころか単に燃料代が高くなって、苦しい状況がより一層深刻な事態になっています。反T P Pだあ！と思っていたら例外なき関税撤廃が、ちょっとあいまいな表現になった途端、参加してもいいかも？などと流れが変わってきて、この後どうなるんでしょうねえ？

来年の消費税も増税ありきで話が進んでいるような感が漂って、オリンピック招致にどよめきたっている間に大事な話が報道されず、なんかやばくね？って思ってる人もいたりします。

今後、景気が良くなることを祈りつつ頑張らねばと日々思っていますが、業界の発展のためにはそこに働く人たちの生活がより良くなる事が大切なはず。その部分に効果が波及するまで、まだまだ時間がかかりそうな気がします。来年、消費税が4月からアップしたら年度末は、とんでもなく忙しくなりそうな予感。でも、その後とんでもなく暇になりそうな予感のする今年の年度末です。

◇「東京マラソン 2013」

研修委員長 大島 弥一〔新宿支部 大島運輸(株)〕

『今年こそ最後』をキャッチコピーに今年もロジ研・青年総勢23名が都庁前に繰り出しました。我がロジ研、松本本部長、石川副本部長を含め4人が初参加で、スタート地点での40分の待ち時間は、この日は走っていても寒さが抜けない状態の中で最悪のコンディションでした(;>_<)

結果は予想通り初参加組+1名の5名がリタイア、18名が完走という全体の完走率を下回っていますが、それだけフルマラソンは難しく、完走する方は努力しているか、要領がいいかだと思います(;^_^A



◇「<美食の点呼記録>・・・VIII」

ランチのおススメをもう一店ご紹介します。今回は『そば』です。マラソン走って胃袋小さくなったのか？いえいえ、心配はご無用。ただのそばではございません。その名は、つけ蕎麦安土。高田馬場に本店のあるこの店は昼時には行列ができる事も。特製つけ蕎麦を注文した。中盛り・大盛りも同じ料金で選べる。待つ事10分で運ばれてきたお盆の上には、メンマ・味付け玉子・チャーシュー・唐揚げ・豚しゃぶがトッピングとして添えてあり、つけ汁も赤い。ラーメンか？早速食べてみると山椒などでスパイシーに仕上げているが、元はそばつゆの様だ。正当な蕎麦っ喰いには支持を得るのは難しいが、こういう店を知っておくとモテるらしい。歌舞伎町にもあるので、子猫を連れてお試しあれ。

つけ蕎麦安土 高田馬場本店 03-3227-9886
東京都新宿区高田馬場 4-18-9 11:00~23:00

<ペンネーム 常時無礼講>

◇「平成24年度第2回東ト協三組織合同セミナー」
広報副委員長 半田 一恵〔中央支部 (株)入船物流システム〕

平成25年3月7日(木)16時より、“飲酒運転防止のための、アルコール基礎知識”とのテーマで開催。4つの講座形式で、スクリーンを交え講演。

講座① アルコール「1単位」と体質

1. アルコールの1単位の分量は・・・
ビール(5%)500ml・日本酒(15%)180ml・ウイスキー(43%)60ml
ワイン(12%)200ml・チューハイ(7%)350ml・焼酎(25%)100ml
・純アルコールの計算式
=お酒の量(ml)×[アルコール度数(%)÷100]×0.8(比重)
2. 肝臓での処理時間(目安)
1単位=4時間・2単位=8時間
3単位=12時間・4単位=16時間
5単位=20時間・6単位=24時間
・毎日、3単位以上飲酒すると生活習慣病やガン・アルコール依存症になりやすい・飲酒するなら「1単位」

講座② 「酔い」の正体と運転への影響

- ・「酔い」は脳がマヒする
- ・アルコールの運転への影響
反応時間・運動機能の低下・安全走行に不可欠な能力の低下・
理性、自制心の低下・平衡感覚がなくなる等

講座③ 「寝酒の落とし穴」と「節酒のコツ」

1. 「寝酒」の落とし穴
 - ①本来の眠りのパターンをこわす
 - ②体に大きな負担がかかる(無呼吸症候群等)
 - ③アルコール依存症への直線コース
 2. アルコールなしで眠るための有効方法の一例
 - ①寝る前に常温の水を飲む
 - ②食事は寝る時間の3時間前にすます
 - ③ぬるめの入浴
 - ④静かな音楽を聴いてリラックス
 - ⑤寝る前の軽い運動
- ・平日、我慢していた飲酒を休日・・・と、つつい深酒になりがち。しかし、深酒をすると、次の日の仕事に・・・！そうならないために、休日を「有意義に過ごす計画」を立てることをおすすめします。(趣味・家庭サービス等)

講座④ 「アルコール依存症」の予防と早期発見

- ・アルコールは薬物と同じ
アルコール依存症の進行プロセス
・境界線=ほとんど毎日飲む
・初期=アルコールが必需品
・中期=酒がきれると症状がでる
・後期=飲むためのウソ、隠れ飲み、迎え酒が常習化アルコール依存症は病=「断酒」「治療」しかない
また、セミナーではアルコール体質試験パッチを実施。(私は飲めない人・・・が判明?)セミナーを通し、飲酒に潜む怖さ・知識を得ることの重要性を痛感。少しでも情報共有できればと思い、重要ポイントだけを掲載しました。

◇「ことの始まりは」

広報副委員長 鈴木 貢〔葛飾支部 (有)すずか梱包運輸〕

ことの始まりは、ロジ研で温故創新セミナー並びに海外研修として2007年11月にタイ・アユタヤ等への訪問を計画していたところ、外務省の日・タイ修好120周年の記念行事の一環として認められ、バンコクを訪れたその時の表敬訪問先のトラック協会(当時は The Transportation Association と言う)とのお付き合いがきっかけでした。

夜にタイトラック協会の"Chumpol"さんたちと飲んで、いろいろなお話をさせてもらいました。以来、こんにちまで、連絡を取り合っ、事あるごとに飲み交わしております。

彼らとの一回目のゴルフ大会は、最初の出会いから2年後の2009年11月12日。前日、バンコクのソンプーンというレストランで懇親会を行なった折、「皆さん、今日は一日何をしていましたか?」「ゴルフをやっていました。」「そうでしたか、私たちもゴルフをやるんですよ」と、云う話から「今度一緒にまわってみたいですね。」「あなたたちが滞在している間に一回やりましょうよ」と、話が膨らみ、「明日、一緒に回りましょう」と、トントン拍子に話がまとまった。

そして翌日、日タイ親善ゴルフコンペが開催されることとなり、コースはタイ側で確保してくれることに。日本側、タイ側それぞれ5人ずつ参加して、1ラウンド。勝敗はホール毎のベストスコア累算方式でやることになりました。負けた方が当日のパーティー代を持つということに。

日本チーム、本来はこの日はゴルフの中休みで予定を入れずにパタヤにでも行こうと話していたそうす。しかし、わたしの取り計らい(おせっかい?)で、その日の日程はゴルフ・コンペとなりました。

話をつけた当の私は、ゴルフはやりません。当日パタヤのホテルを予約して、現地の友達とラーン島に遊びに行くことになっておりました。当日、皆さんの罵声を浴びたのは言うまでもありません。

結果は、日本側が7つのバーディーで圧勝。タイにはその後も、みんなと何度も行ってはいたのですが、しばらくして、震災があったり、大洪水があったりと、なかなか遊びに行くという雰囲気から離れてしまいました。

メールでお互いを気遣う中、やはり、顔を見たいねと言うことで、一年位して、再度出かけてきました。「ゴルフご一緒した皆さんは元気ですか?」「相変わらずやっていますよ」「前回負けた、雪辱をはらしたいです」「えっ!!」それが今年2月16日のアユタヤ・ゴルフコンペへと繋がります。たまたま広報委員長に、今度有志でタイに行くけれど、私も来ないかと誘われました。だったらゴルフの話を決めてしまおうかと、先方に電話したら大乗り気。「今度はおまえも来るんだろうな?」と、双方に脅かされて随行を余儀なくされました。



ロジ研の会合で、「オフィシャルな交流を持ちたい」と提言したところ、ありがたくご承認。先方にその旨伝えたところ、「うちもオフィシャルでやりたい」とご返事を頂き、お互い招待状を交わし、お互いの冠を刻んだトロフィーを作ることに。

先方で総ての段取りはJOH君がやってくれました。彼も、わたしと同じくゴルフをやらないので、「どうやってスコアつけるんだ?」「前回とおんなじでいいんじゃない?」「キャディーって何人いるんだ?」「金かかるんだろう?」と、訳の判らない者同士、勝手に解釈して話を進めていきます。

途中で場所を変えざるを得なくなったり、大丈夫かと思われる場面もありましたが、何とか最期までたどり着きました。

いやー、こういった遊びごとは話がトントン拍子に進んで非常に面白い事態へと推移します。当初、10人位のコンペのつもりが、結局40人の大所帯に。また、現地のいすゞ販売法人も通訳を買って出てくれて、非常に楽しいコンペになったと思います。

案ずるより産むが易しとは正にこの事。行動してくれた人々に感謝しつつ、両国にいい友達を持ったと、一人悦に入って帰国した私でした。

◇「第二回 日タイ交流ゴルフ戦の結果」

広報委員長 山田 正信〔足立支部 (株)森田商運〕

ゴルフ好きに国境はない。対戦場所はアユタヤのバンサイCCで、バンコクからは少し遠いがかんりの難コース。日本側の参加者は足立支部のゴルフ好きが主体と成り、藤倉、相楽、山田、比気、杉田、土崎、坂入、都築の各プレーヤー、そこに中央支部の下川副本部長、多摩支部より宮本副本部長が参加と成り総勢10人の精鋭?で大会に挑む事と成った。

対戦方法は本来であれば上位4~5人のスコア合計戦かベストホール取りでの決着としたいところだったが、参加者が増えてしまったために主催者側が混乱してしまい、10人対10人でのスコア合計での優劣との提案もあったが、タイ側の重鎮よりバーディー数での決着ではとの提案が有り、有難く申し出を受ける事と成った。(スコア合計ではタイ側勝利と成っていた)

結果は、タイ側の6バーディー。ロジ研は宮本副本部長のミドルワンオンのバーディーと相楽副本部長が2つ、スコア97の乱調ながら3つのバーディーをもぎ取った下川副本部長の合計6バーディーにて引き分けとなり、かろうじて面目躍如と成りました。次回も必ずと再会、再戦の約束をすると共に懇親会でも盛り上がりました。

尚、来年度に発足予定の海外交流分科会(鈴木貢副本部長座長)の立ち上げに、弾みがつく事に成ったのではと思ひ、今回の日タイゴルフ交流戦は大変に有意義であったのではと感じております。



◇「東ト協ロジスティクス研究会フォーラム7の開催について」

6年間「安全と安心」というテーマで研修・研究を進め、事故防止に係る技術面、事故防止等を実施する経営面、また、取り巻く状況を各方面の視点から考察してまいりました。

本年度は「持続性の追求」を統一テーマとして、より効果的で効率的な対策を検討するため、マクロ的な視点から個別の問題への収斂を図るため、「日本の動きと運送業界を取り巻く環境の変化」～トラック運送経営への影響～をテーマに「フォーラム7」を開催いたします。

「フォーラム7」では、流通経済大学の野尻教授にコーディネーターをお務めいただき、パネリストに作家・評論家の三橋貴明氏、立教大学経済学部教授の高岡美佳氏、関東運輸局自動車交通部長の秋田未樹氏、ロジ研からは副本部長・企画委員長の下川悟氏をお願いしております。現在の国内情勢や動向から業界への影響と現状の問題等をパネルディスカッションによりその解決策等を考えてまいります。会員・社員・荷主物流担当者等関係の皆様もお誘いの上、ご出席くださいますようお願いいたします。

当日の参加も受け付けます。直接お越しください。

1. 日 時 平成25年3月14日(木) 15:00～、
終了後17:40より4Fにて交流会 全て無料です。
2. 場 所 東京都トラック総合会館 7F大会議室

◇スケジュール《○ロジ研行事予定》

- 3/14(木) 12:00~13:00 正副本部長会議 (東ト総合会館4階)
- 3/14(木) 15:00~ロジ研フォーラム・交流会(東ト総合会館7階)
- 3/27(水) 16:00~三組織連絡会 (東ト総合会館6研)
- 4/10(水) 16:00~本部連絡会(東ト総合会館6中)
- 6/ 5(水) 青年部総会(東ト総合会館7階)
- 6/ 7(金) 女性部総会(東ト総合会館7階)
- 6/11(火) ロジ研総会(東ト総合会館7階)

※2月号に一部誤りがありました。お詫びして訂正させていただきます。ロジ研総会は6/11(火)となります。6/10(月)は誤りです。